

Title	イノベーションを生み出すための組織上の条件
Sub Title	
Author	三宅龍哉 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第439号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0439

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 三宅龍哉
(富士通株式会社)
所属ゼミナール 古川公成 研

主査 小野 桂之介
副査 古川 公成
高木 晴夫

イノベーションを生み出すための組織上の条件

本論文の目的は、産業技術の分野でのイノベーションを生み出すための組織上の条件を明らかにすることである。イノベーションのタイプにより組織対応が異なることが予想されたので、本論文ではまずイノベーションを分類し、そのタイプごとに組織対応を事例研究する方法を採用している。

イノベーションは次の2次元で分類されている。第一の次元では経営者の新製品戦略に役立つよう、ライフサイクルの段階を基準に4種類に分類される。第二の次元では組織対応との関連を明らかにするために、その開発過程の性格により3種類に分類される。日刊工業新聞社選定の「年間10大新製品」に表彰された過去10年間の新製品100種を上記2次元で分類した結果、両次元の間には一定のパターンで関係があることが明らかにされた。

組織対応の考察にあたっては、論点を①異種情報の交流②自律性③決定のスタイル④コンフリクト解決スタイル⑤個と全体の関係、の5つとした。そして開発過程の性格によるイノベーションのタイプごとに各々の項目についてどのような組織対応がとられるべきかを考察した。考察はモデルを事例で検証する方法で行っている。その結果、イノベーションのタイプごとにそれに適した組織対応が明らかにされた。

結論として①開発しようとする製品のライフサイクル上の段階に応じた組織対応があること②同一製品でも、そのライフサイクル上の段階が移行すれば組織対応を変える必要があること、が提言されている。